

山梨県若手研究者奨励事業 研究成果報告書（詳細版）

所 属 機 関 山梨学院短期大学

職 名 ・ 氏 名 専任講師・室町 さやか

【研究分野】 こども学

【研究テーマ】

山梨県の幼稚園・保育園・認定こども園での音楽活動と保育士養成校における音楽教育に関する研究

1. 研究の目的

本研究の目的は以下の通りである。

- 1) 山梨県内の幼稚園、保育所、こども園での音楽活動について調査し、その実態を明らかにする
- 2) 1)の調査結果を分析し、保育者及び幼稚園教諭に求められる音楽の力を明らかにする
- 3) 1)、2)から保育者養成校における音楽教育のあり方について考察する

保育および教育の現場では音楽活動が多く行われており、多くの保育者養成校では質の高い保育者および教諭を育てるために音楽に関連する講義を複数開講しているが、そこに「現場のニーズ」がどの程度は程度反映されているかは疑問である。本研究では、まず幼稚園、保育所、こども園での音楽活動について調査し、こどもの現場で保育者に求められる音楽能力を明らかにする。次に 1)～2)で明らかになった現場のニーズを音楽教育学の観点から分析し、保育者養成校における音楽教育について論じる。現場が必要とする音楽能力を有する保育者を育てることは重要であるが、社会の情勢によって変化しやすいニーズを満たすだけでは養成校が果たす役割としては不十分であると考えられる。「現場が求める保育士および幼稚園教諭の音楽能力」を踏まえた上で養成校に必要とされる音楽教育について考察を行うことで養成校における音楽教育の質を向上させ、より質の高い音楽教育を実践することのできる保育者及び幼稚園教諭を社会に送り出し、地域の保育及び教育に貢献することが可能となる。

2. 研究の背景

2016年に待機児童を持つ母親がネット上に匿名で書き込んだ「保育所落ちた日本死ぬ」という言葉は国会質問で取り上げられ、多くの議論を呼んだ。2017年1月に発表された厚生労働省の「保育士確保集中取組キャンペーン（厚生労働省 2017）」では、保育士の有

効求人倍率は全国では 2.34 倍、東京では 5.68 倍であり、全国的に保育士が必要とされている現状が浮き彫りとなった。2016 年度の山梨県における待機児童数は 0 であり、2016 年 11 月時点での保育士の有効求人倍率は 0.95 であるが、「ダイナミックやまなし総合計画（山梨県 2015）」で発表された県民を対象としたアンケート結果では、女性が出産後に離職した理由として「子育てしながら仕事を続けられる環境の整備が不十分である」ことが挙げられており、人口確保策として行政が取り組むべき施策として「子育てしやすい環境づくり」という回答が未婚者既婚者ともに多いという結果からも、県内において子育て環境を整備するための保育士の確保は重要な課題であるといえる。

このように待機児童や保育士の不足はと大きな課題であり、保育士や幼稚園教諭を養成する養成校への社会からの期待も大きいと考えられる。しかしながら、保育士が多く求められる売り手市場の現状に甘え、数の確保を目的に質を問わずに新たな保育者を多く社会に送り出すことを優先した場合、それらの保育者にゆだねられる子どもたちの保育や教育に影響が出てしまうことは明らかである。保育士の不足が問題となっている今日であるからこそ、養成校はいまいちど自身の教育内容を見直し、質の高い保育者および教育者を社会に送り出すことが必要とされる。本研究は山梨県内の幼稚園、保育所、こども園での音楽活動について調査し、こどもの現場での音楽活動の実態から保育者にどのような音楽の力が求められているのかを明らかにした上で、保育者養成校における音楽教育のあり方について論じるものである。

3. 学術的な特色と意義

保育者に求められる音楽能力については、これまでに複数の先行研究が著されている。幼稚園などを対象に質問紙調査を行い、現場が新任の保育者に求める音楽の能力を明らかにしようと試みた若谷の研究（若谷 2017）、保育者養成の立場から必要となるピアノ技術について論じた澤田の研究（澤田 2013）、表現の観点から保育者の音楽的資質について取り上げた三森の研究（三森 2001）などが挙げられる。しかしながらひとつの県全域の幼稚園、保育所、認定こども園における音楽活動を対象とした研究は希少であり、また質問紙調査によって実態や現場が求める音楽能力を明らかにするだけではなく、幼児にとって身近で影響力の強い保育士及び幼稚園教諭を養成する養成校の教育の質の向上に結び付けようとする点は本研究独自のものである。本研究の成果の実社会への貢献としては以下のことが考えられる。

1) 山梨県内の幼児教育の質の向上

すでに述べた通り、本研究によって山梨県内の幼児音楽教育の実態と課題が明らかになる。これらの結果は、現状を把握し、幼稚園、保育所、認定こども園における音楽教育の質の向上を計る一助となることが考えられる。

2) なだらかな幼小接続への基礎的な知見

幼小接続に関しては文部科学省の実態調査（文部科学省 2015）、後藤と鹿渡の研究（後藤、

鹿渡 2010)、三村らの研究(三村, 吉富, 北野 2004)など多くの研究で論じられているが、音楽科における接続の課題のひとつとして就学前に実施されている音楽活動が多様であり、小学校の教員が子どもたちが就学前にどのような音楽的学びを積み重ねてきたかを理解することが困難であるということがいえる。本研究の成果は就学前の音楽活動についての基礎的な知見となり、なだらかな幼小接続へ向けての手掛かりとすることが可能である。

3) 保育士、幼稚園教諭の質の向上

音楽活動が幼児期の子どもにとって重要なものであることは広く知られているが、それぞれの子どもの発達段階に適した音楽活動を行い、子どもの育ちを支援できるかどうかは保育士や幼稚園教諭個人の資質によるところが大きいと考えられる。本研究では音楽活動の実態調査の結果を保育士養成教育に反映させ、保育士および幼稚園教諭を志望する学生への教育の質を上げることを試みている。養成校における音楽教育の質を高めることで、そこで学ぶ学生たちの音楽能力を高めることが可能となり、保育士、幼稚園教諭の質の向上、ひいては幼児教育の質を向上させることができる。

4. 研究方法

本研究は以下の方法で実施した。

1) 県内の幼稚園、保育所、認定こども園における質問紙調査

山梨県内幼稚園、保育所、認定こども園に質問紙を送付し、音楽活動の内容、時間等を調査した。

2) 1)で回収した調査票の集計と分析

1)の回答結果より、現場で実施されている音楽活動を明らかにする。

3) 考察

2)の結果より、保育者に求められている音楽能力、保育士養成校における音楽教育のあり方について考察する。なお本報告書の段階では2)までが完了しており、現在までに得られた結果を報告している。

5. 調査結果

2017年12月に山梨県内の幼稚園、保育所、認定こども園324園に質問紙を送付し、190園から回答を得た(回答率58.6%)。回答のあった施設の種別は、幼稚園8.9%、保育所46.3%、認定こども園11.1%、無回答33.7%であった(表1)。紙面の都合により、ここでは質問と回答の一部を報告する。

園で実施されている「音楽に関連の深い活動」については表2のような回答が得られた。なお弾き歌いについては別途質問を設けているため、ここでは含まれない。もっとも多かったのは「手あそび」であり、回答したすべての園が実施していた。手あそびを行っているクラスは3歳児未満が86.8%と最も高かった(表3)。異年齢クラスは縦割りのクラス自体が

比較的少ないことから比率が低くなったと考えられるが、年小、年中、年長クラスでも70%以上が実施しており、幅広い発達段階の子どものクラスで手あそびの活動が行われていることが明らかになった。手あそびの実施者は「教職員」という回答が90.5%であるが、3.2%の園が教職員と外部教師の両方によって実施されている(表4)。手あそびの活動頻度は「毎日」が84.2%と最も多く、「あまりやらない」と回答した園が2.2%あるものの、ほとんどの園で頻度の高い活動として行われていることがわかった(表5)。一度の活動時間については、5分以上15分未満が64.7%と最も多く、活動時間30分未満の園が90.5%であった(表6)。

6. 考察と今後の展望

本研究により、山梨県内の幼稚園、保育所、認定こども園で行われている音楽活動の実態が明らかになった。質問紙票の集計で得た結果を基礎的な知見とし、今後は以下のような主題に沿って研究を継続し、所属学会で発表する予定である。

1) 保育者に必要とされるピアノの技能について

多くの保育者養成校でピアノの講義が開講され、保育士資格試験にピアノの実技試験が課せられていることから、ピアノを演奏したり、弾き歌いをしたりする技能が保育者にとって基礎的な音楽技能であることは明白である。しかしながら、就職後に必要となる技能の水準については、いまだ明らかにされていない。技能は高ければ高いほど良いことは論を待たないが、保育者養成課程に入学するまでピアノを弾いたことがない初心者の学生も多く、限られた時間の中でどの程度の水準まで技能を上げれば良いのかは不明確であり、ピアノ学習において目標が見え難いことが学生にとっても指導者にとっても困難さを感じる一因であると考えられる。本調査で得られたデータを元に、保育者に必要とされるピアノの技能を明らかにし、保育者養成校におけるピアノ教育のあり方について論じる。

2) 個々の活動に着目した研究

本調査により、県内のこどもの現場では幅広い音楽活動が展開されていることが明らかになった。しかしながら質問紙調査のみでは具体的な教材や指導法は不明である。たとえば「わらべうたによるあそびや活動」は「園で実施されている音楽に関連の深い活動」で得られた結果のうち、91.1%と全体で5番目に高いが、わらべうたを教材のひとつとして採り入れているのか、あるいはコダーイ・メソッドのような音楽教育法に沿って行われているのかは明らかになっていない。しかしながら、わらべうたによるあそびや活動を行っているという回答した園に着目し、インタビュー調査や観察調査を実施することで、その活動の詳細や音楽活動を通して成長するこどもの姿を明らかにすることが可能である。このように個々の活動に着目し、音楽活動が現場でどのように行われているか、それらの活動が子どもにとってどのような意義があるのかを明らかにしていくことが可能である。

3) 現場が保育者養成校に求める音楽教育

質問紙の最後の設問に「幼児期の音楽活動についてのお考えや、音楽教育の面で保育者養

成校に望まれることなど、自由にお書き下さい。」と自由記述欄を設けたところ、多くの回答が寄せられた。これらの記述の中には現場でこどもたちと関わる保育者が実体験を通して得た音楽教育への思いや保育者養成校における音楽教育への提言などが含有されており、テキストを分析することで「現場が保育者養成校に求める音楽教育」を明らかにし、今後の保育者養成校の教育に生かすことが可能である。

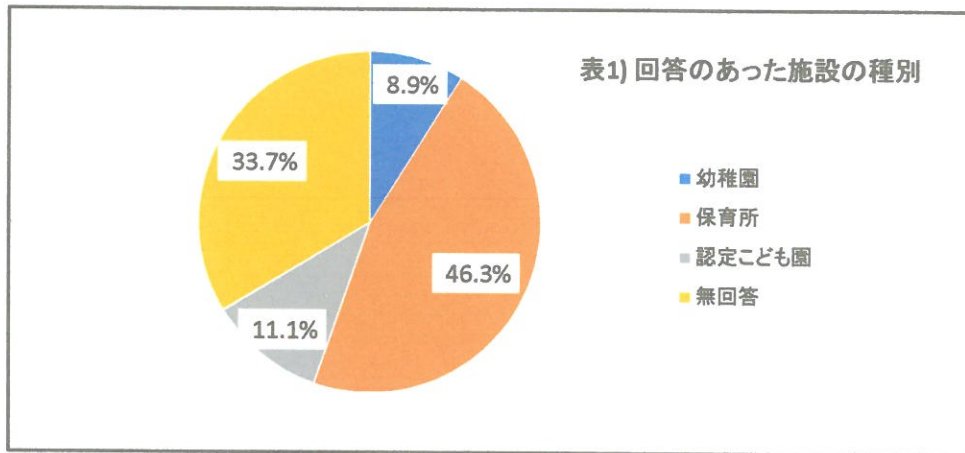


表 3) 手あそびが実施されているクラス

クラス	回答	比率
3歳未満	165	86.8%
年少	151	79.5%
年中	150	78.9%
年長	144	75.8%
異年齢	92	48.4%
合計	702	
合計回答者数	190	

表 2) 園で実施されている弾き歌い以外の音楽と関わりの深い活動

活動内容	回答数	比率
手あそび	190	100.0%
けんばんハーモニカ等のけんばん楽器を用いたあそびや活動	182	95.8%
カスタネット、鈴、タンバリンなど簡単な打楽器を用いたあそびや活動	179	94.2%
オペレッタ、ミュージカル、音楽劇など	175	92.1%
わらべうたによるあそびや活動	173	91.1%
マーチング	173	91.1%
音の出るおもちゃや手作り楽器を用いたあそびや活動	172	90.5%
リトミック	170	89.5%
CDなどの音楽に合わせて歌う活動	169	88.9%
木琴や鉄琴などの音階を演奏できる打楽器を用いたあそびや活動	160	84.2%
ダンス	160	84.2%
よさこい、和楽器などの日本の伝統芸能	160	84.2%
ミュージックベルやトーンチャイムなど、ひとつの楽器がひとつの音高を持つ楽器を用いたあそびや活動	159	83.7%
音を聴くことに着目したあそびや活動（音楽のほか、自然の音や身近な生活の音なども含む）	155	81.6%
無伴奏で歌を歌う活動	155	81.6%
沈黙や静寂に着目したあそびや活動	152	80.0%
音楽あそび（楽器を用いないもの）	151	79.5%
その他	14	7.4%
合計	2,849	
合計回答者数	190	

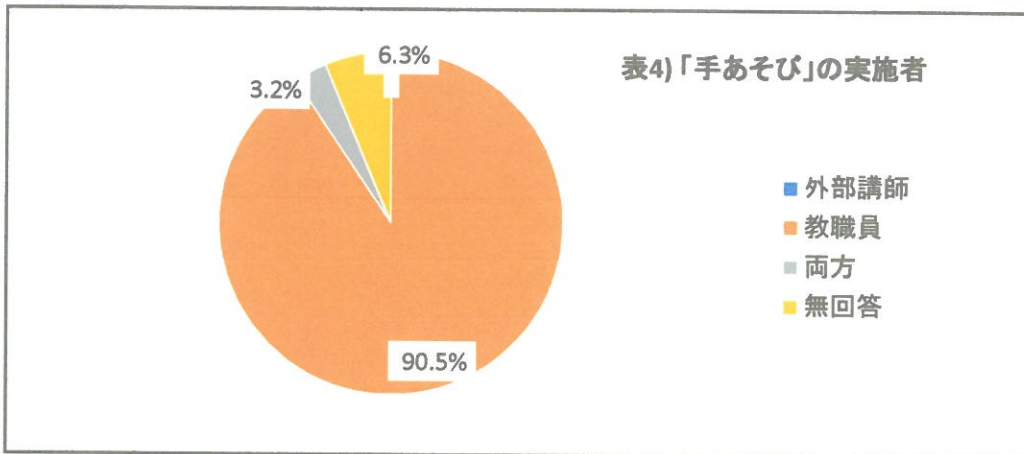
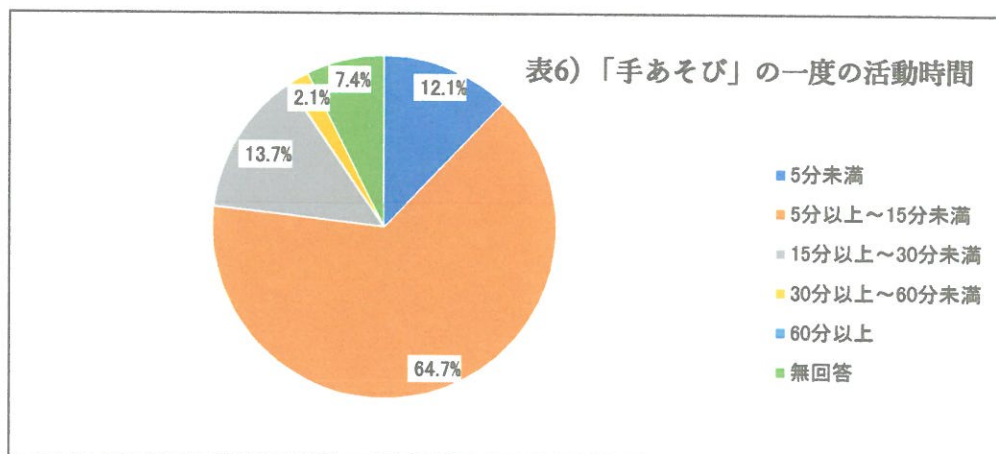


表 5) 手あそびの活動頻度

	回答	比率
1)ほぼ毎日	160	84.2%
2) 週に2~3度	21	11.1%
3) 週に一度	2	1.1%
4) 月に2~3度	0	0.0%
5) あまりやっていない	2	1.1%
6) ほぼやっていない	0	0.0%
7) やっていません	0	0.0%
無回答	5	2.6%
合計	190	



【引用・参考文献】

- 厚生労働省. 2017. “保育士確保集中取組キャンペーン.” <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000148854.pdf>
- 後藤永子, 鹿渡よしみ. 2010. “幼稚園・保育所と小学校の連携の課題について.” 東邦学誌 39 (2). 愛知東邦大学: 31-48.
- 澤田まゆみ. 2013. “保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か.” 新島学園短期大学紀要 33. 新島学園短期大学: 57-66.
- 三森 桂子. 2001. “保育者に求められる音楽的資質について.” 日本保育学会大会研究論文集, no. 54. 日本保育学会大会準備委員会: 638-39.
- 三村真弓, 吉富功修, 北野幸子. 2004. “音楽教育における保幼小連携のための基礎的研究—音楽教育に関する意識調査を中心に.” 教育学研究紀要 50 (1). 中国四国教育学会: 267-72.
- 文部科学省. 2015. “平成26年度 幼児教育実態調査.” http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/10/_icsFiles/afieldfile/2015/10/28/1363377_01_1.pdf.
- 山梨県. 2015. “ダイナミックやまなし総合計画.” <http://www.pref.yamanashi.jp/seisaku/sogokeikaku/dynamicyamanashikeikaku.html>.
- 若谷啓子. 2016. “保育における音楽についての一考察.” 学校音楽教育研究 20, 日本学校音楽教育実践学会: 259-260.